

ウメの病害虫-2

(病害虫講座-45)

病原菌も頑張っています



木村 裕

【黒星病】

果実の代表的な病害で、果実の表面に緑黒色の2~3ミリのすす状の円形の病斑がいくつも現われ、その部分は浅く凹みます。

枝上で越冬した病原菌が発生源となり、花が終わって小さな果実ができ始めた頃に孢子が飛び散って果実に感染しますが、被害症状が見え始めるのは5月に入ってからです。

潜伏期間中は症状が現れませんが、前年に発生した樹では枝上に菌が残っていますので、冬季と幼果の頃の薬剤散布が欠かせません。



【モンシロドクガ】

4~5月頃、黄色と黒色のツートンカラの綺麗な毛虫が発生して葉をかじります。集団で発生することはありませんが、毛に毒があるので触れないように注意。

ウメでは、マイマイガ、オビカレハ、ヒメシロモンドクガなどの毛虫もときどき発生します。



【ウメエダシャク】

黒地に黄色の小さな斑紋があるシャクトリムシが発生することがあります。発生する園では毎年発生するようですが、葉が丸坊主になることはありません。

成虫はモンシロチョウくらいの大きさの蛾で、白地に黒い筋紋があり、6月中頃にひらひらとウメの近辺をよく飛び回っています。



【ウメシロカイガラムシ】

幹や枝に長さ1~2ミリの、円盤状の白い口物質物が付着します。貝のかきの小型版です。針で円盤を剥がすと黄色の柔らかい虫が見つかります。発生が多いと枝全体が白い貝殻で埋まることもあります。脚はなく、ずっと固着したままで樹液を吸っています。防除は手間がかかりますがブラシ等でこすり落とすことです。

